

「交流公園は市民の財産です。
ぜひ足を運んで、天然の芝に触れてほしい。」

育

中央図書館から市民館前を真っ直ぐ西に進むと、目の前に開けるのは緑豊かな公園“山口県立おのだサッカー交流公園”（以下交流公園）です。観客 4,000 人を収容可能な天然芝のグラウンドは、2011 年に開催される“山口国体”の少年サッカー大会会場に決定しています。2006 年 7 月の完成以後、週末ともなるとサッカーの試合や各種イベントでにぎわう同公園ですが、更なる利用・交流促進のため、昨年 4 月に“スポーツ交流まちづくり市民協議会”（以下協議会）が立ち上がりました。

「自分たちのまちにできたサッカー場を有効活用したい。」協議会の出発点となった想いを語ってくれるのは、会長を務める吉岡征一さんです。昨年 10 月には“わいわいサッカー大会”を手掛け、「反省点は改善しながら、今後も継続して開催していきたい。」と協議会の初仕事を振り返ります。大会の開始前には、教育委員会との“協働”により市内の幼稚園児が一同に顔を合せる場を設け、「交流公園は市民の財産。サッカーはもちろん、サッカーをしない人もウォーキングやコミュニケーションの場として活用して欲しい。」と、交流公園から広がる市民交流にも意欲を見せます。

核となるサッカーに関しては、昨年、「サッカー場を利用したまちづくり」の先進地である熊本県大津町を研究視察で訪れた際に「老若男女を問わず、誰もが“オフサイド”の意味を理解していた」ことに驚きを感じるとともに、「地域全体のサッカー熱を上げる取組み」の重要性を目の当たりにし、「いつか交流公園でプロの試合を」との想いを強くしたそうです。

その視線の先には、4,000 人の観客で埋まる緑のグラウンドが広がります。



吉岡 征一さん 叶松一丁目

スポーツ交流まちづくり市民協議会会長。2006 年の山口県立おのだサッカー交流公園竣工を受けて、2007 年 4 月に市民ボランティア団体として同協議会を発足させる。2008 年も交流公園の活用促進に向けた取組みが続く。

交流公園から広げよう～緑の絨毯が育む市民の輪～



▲昨年 10 月に行われた「わいわいサッカー大会」。芝のグラウンドで熱い戦いが繰り広げられました。

スポーツ × 交流 × まちづくり

現在、スポーツ交流まちづくり市民協議会の会員は 30 人。「交流公園から広がるコミュニケーションの輪」の実現に向け、会員全員がボランティアで協議会を運営しています。

協議会発足から今日まで、活動が続ける中で見えてきた問題点は“人手不足”。今の人数では、どうしてもできることに限りがあります。今後は、他団体とのつながりを深めるとともに、コミュニティを大きくしていくことが重要課題となりそうです。

協議会では、スポーツ交流等を通じたまちづくりと一緒に手掛けてくれる方を歓迎します。興味のある方は、市企画課（☎ 82-1130）までご連絡ください。